

東北ブナ紀行（73）

奥田 博

鬼首高原と呼ばれる一帯には、荒雄岳を中心に、須金岳、禿岳、大柴山、花淵山などの外輪山が囲むように連なる。標高が低いにも関わらず、素晴らしいブナ林と森林限界を越えた風景を楽しむことができる。

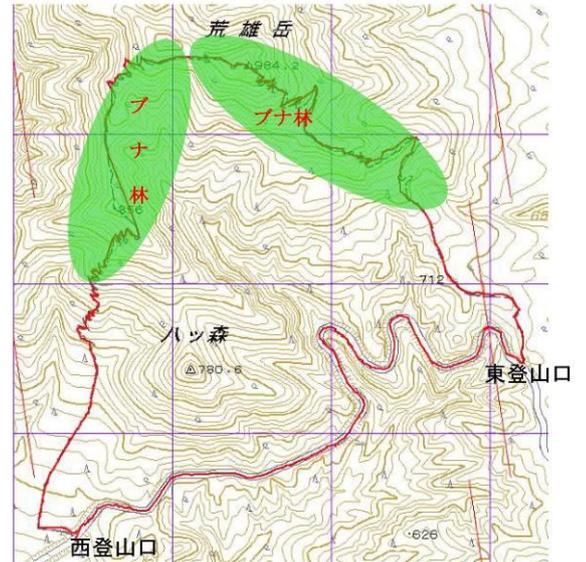
111) 荒雄岳 984m

荒雄岳は標高こそ千々に満たないが鬼首カルデラの中央火口丘である。周辺には多くの温泉が湧き、間欠泉や片山地獄と呼ばれる火山噴気も多くみられる。外輪の山から荒雄岳を望むと、環状盆地に囲まれて中央火口丘であることが良く分かる。阿蘇山には遠く及ばないが、ミニ・カルデラの風景が確かに広がる。

火山活動から長い時間を経た荒雄岳は、すっかりブナに覆われた山に変身している。西登山口に車を停めて林道のあるいて東登山口へ、ここから登山道に入る。しばらく登ると周囲はブナの森に囲まれる。古木から若木まで、うまく世代が混在している様子がうかがえる。急坂を越えると山頂到着でした。山頂からは北面が開けており、栗駒山が望めた。

下山の尾根も、ブナの森の中をたどる。尾根をわたる風が涼しく感じられるのも、ブナの森の魅力だろう。長い急坂を下ると、杉林となり登山を終えた。

コースタイム：西登山口(40分) 東登山口(1時間) 山頂(50分) 西登山口

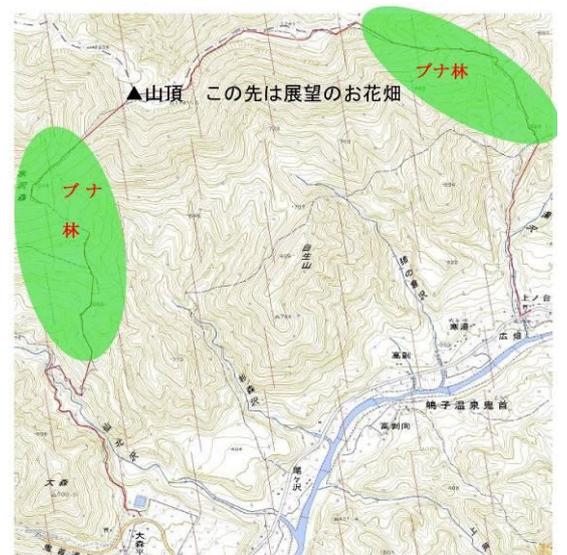


112) 須金岳 1253m

鬼首カルデラの外輪山の一峰であるが、須金山を下から見ると、どこが山頂か分からないほど平らな高原が東西に広がっている。この西端に山頂はあるが、山容は穏やかな高原の印象を持つ。

東側の登山口から山頂までは標高差千々に越えるため、侮ってはいけない。沢を越えて尾根にたどり着くと、ブナやヒメコマツの森を登るようになる。次第にブナの大木があちこちに見られるようになる。途中には倒木が道を塞いでいたのを鋸で破断されたブナが横たわっていた。樹齢150年で天寿全うした感がある。さらに登ると、ブナの新芽である双葉が登山道を埋めつくすように顔を出していた。次の世代が育って、森が更新されてゆく新旧を垣間見たように思った。山頂稜線はお花畑で、展望良好。下山も長いブナの森を下っていった。

コースタイム：仙北沢登山口(2時間) 水沢盛(40分) 山頂(40分) 九合目(2時間) 寒湯沢登山口



須金岳途中の倒木ブナとたくさんのブナ双葉(小写真)

荒雄岳では古木から若木まで、うまく世代が混在している

